

平成19年度全国学力・学習状況調査結果の概要

平成19年12月
長野市教育委員会

1 趣 旨

長野市では、本市の重要課題である「基礎学力の保障」を図るため、長野市小中学校基礎学力調査事業の一環として、児童・生徒にどのような力が定着し、どんな課題があるのかを把握し、教師の授業改善や学校の学習指導や教育課程の改善に活かすために標準学力検査NRTを実施してきている。今年度、長野市の児童・生徒への基礎学力の保障を図る取組の一つとして、全国学力・学習状況調査に参加し、10月に結果が返却されたので、教科に関する調査について長野市の児童・生徒の状況を取りまとめた。

2 調査対象学年、実施学校数、児童生徒数、教科及び調査実施日

実施学年	実施学校数（実施率）	児童生徒数	実施日
小学校第6学年	54校（100%）	3,487人	平成19年4月24日（火）
中学校第3学年	23校（100%）	3,190人	平成19年4月24日（火）

3 調査問題の種類

教科に関する調査・・・国語、算数・数学の2教科において実施

①主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）

- ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- イ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

②主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）

- ア 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力にかかわる内容
- イ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力にかかわる内容

4 長野市児童・生徒の状況（教科に関する調査について）

（1）調査結果の状況

- ①小学校6年生、中学校3年生ともに国語、算数・数学の各教科において、主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）及び主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）ともに、全国平均正答率を上回っている。
- ②問題ごとの正答数合計の分布状況は、全国とほぼ同じ傾向である。全国に比べて正答数が少ない児童生徒の割合が低く、正答数の多い児童生徒の割合が高い。
- ③設問別正答率と無解答率は、全国とほぼ同じ傾向である。平均無解答率は全国に比べて低い。
- ④設問形式からみると、選択式、短答式、記述式とも全国平均正答率を上回っている。短答式の平均正答率が一番高い。

（2）問題別の概要

長野市の児童生徒が、今回出題されている学習内容について、どんな力が定着していてどこに課題があるのかを把握するために、次の観点で調査問題及び学年別に概要をまとめた。

○表の1：全国平均正答率と長野市平均正答率を比較した。

○表の2：長野市児童生徒の設問正答率について、正答率が80%以上の設問のうち特徴的な設問を「理解している」「定着している」として取り上げた。また、正答率が60%より低い設問のうち課題となる設問について「理解、定着不十分である」「課題がある」として取り上げた。

	小学校6年生の調査から	中学校3年生の調査から
国語A	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①漢字の読み方、接続語の使い方、指示語の示す内容について理解している。</p> <p>②漢字を書くことについては、定着している漢字と定着不十分な漢字がみられる。</p> <p>③話の要点をメモに取りながら聞き取ったり、聞き手の反応を確かめながら話したりすることについては理解不十分である。</p>	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①語句の意味を理解して文の中で正しく使うことや敬語を適切に使うことは理解している。</p> <p>②漢字を正しく書いたり読んだりすることについては、定着している漢字と定着不十分な漢字がみられる。</p> <p>③手紙の後付けの書き方については理解不十分である。</p>
国語B	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①司会者の進行の良い点から、司会者としての役割や働きについては理解している。ごみ削減について自分の体験に基づいた考えを指定字数以内で書くという本文と関連づけながら自分の考えを短い文章でまとめる力は定着している。</p> <p>②紙を古紙として再利用することが重要な課題となった理由について読み取り、その理由を要約する力に課題がある。</p>	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①発表のために収集した資料を検討して、自分の考えを効果的に伝えるために図表などの資料を活用する力は定着している。文学的な作品を読んで作品の内容や表現上の特徴をとらえる力は定着している。</p> <p>②4種類の広告カードの内容を比較しながら読み取って、その違いについて分かりやすく書く力に課題がある。</p>
算数・数学A	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①整数・小数・分数の四則計算の計算力はほぼ定着している。</p> <p>②平行四辺形や三角形の面積を求める力や三角形や平行四辺形の性質を理解し、角の大きさを求めたり平行四辺形の頂点を決めたりする力は定着している。</p> <p>③整数×小数の意味を理解し、その計算に合った文章題を選ぶことや少数、分数の大きさを比べることについては理解不十分である。</p>	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①分数のわり算、正負・指数の四則計算の計算力は定着している。</p> <p>②平行線や円周角の性質を理解して角の大きさを求める力は定着しているが、円柱と円錐の面積の関係については理解不十分である。</p> <p>③距離と時間の関係を表すグラフから速さを求めるために必要な情報を読み取る力に課題がある。また確率が表す意味を具体的な文章として説明することについては理解不十分である。</p>
算数・数学B	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①棒グラフから数量の大小や変化の様子をよみとる力は定着しているが、帯グラフから割合の変化を読み取る力に課題がある。</p> <p>②曜日による安売り条件の違いに着目して、安く買える曜日を決めるために、百分率を用いて計算する力に課題がある。</p> <p>③地図の情報から基本的な図形を見だし、平行四辺形の土地と正方形の土地ではどちらが広いかを求めるために、必要な情報を選択し活用する力に課題がある。</p>	<p>1 全国平均正答率を上回っている。</p> <p>2 ①スポーツの対戦表から数値を読み取り、各チームの勝ち点や1位のチームを求める力は定着している。</p> <p>②連続する3つの自然数の和が3の倍数になることの説明をもとに、連続する5つの自然数の和が5の倍数になることを証明するなど、発展的に考え説明する力に課題がある。</p> <p>③一次関数のグラフの特徴を説明したり、そのグラフでは分からない数値を求めたりする力に課題がある。</p>